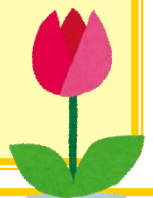


道教組女性部通信



第四号
二〇一八年 三月発行
道教組女性部
(文責：山本佳奈子)



「二〇一八、道教組女性部アンケート」ありがとうございました！

各単組女性部の取り組みを、「全道の声に！」と検討を進めて、9年目になります。今年度は、「二〇八名」のみなさんにご協力頂きました。(中間総括です。集約進行中)。職種としては、一般教諭、養護教諭、事務職員、実習助手・寄宿舎指導員などいろいろな職種の先生方がいらつしやいます。

「眠れていますか？」
「疲れはとれていますか？」

ハラスメントの実態

今年度は睡眠と疲労回復について注目しました。今年度は睡眠と疲労回復について注目しました。女性部学習会でメンタルヘルスマス。女性部発信のアンケートではありつてほしいと思います。

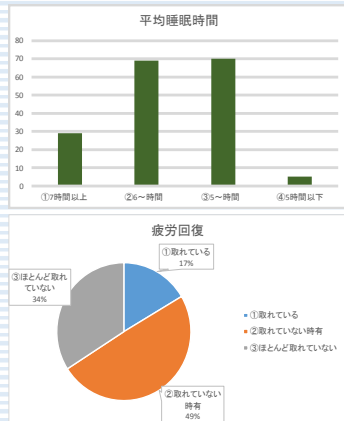
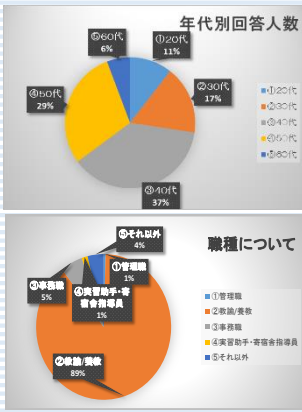
今年度は睡眠と疲労回復について注目しました。今年度は睡眠と疲労回復について注目しました。女性部学習会でメンタルヘルスマス。女性部発信のアンケートではありつてほしいと思います。

今回のアンケートは、情報を見聞きしたという声が増えているのが気になります。女性部発信のアンケートではありつてほしいと思います。

アンケートが職場交流の一役を担っているとしたら、うれしいです。ここに集められる様々な声をきっかけに「仲間とつながる」動きが生まれています。

「土日まで乗り切ろうと無理をして、休日に部活指導や行事が入る。振替や割り振りには全く別のタイミング。いつ、リセットすればいいのでしょうか？」

◆体型についてネタにする
◆独身の方に対する言葉の中にあつた「冗談」「その場のノリ」と思い、受け流した後でやっぱり気分が悪い…そんな思いをしている人が身近にいるかもしれません。働きやすい職場づくりが進むよう、つながって寄り添っていきましょう。



◆校長から教頭へ、××のような言葉があつたように思う
◆朝早く来てほしい、夕方又は遅くまで呼び出される
◆色々なことを長時間、質問されることが多く困っています

編集後記「新年度総会は5月25日で調整中！」詳細後日

集まっておしゃべりすることが「女性部」のよりどころだったはずですが、今年度は本当にそれすらできなかつたという声が寄せられています。どこの地域にもみられた「教育に穴が空く問題」は、こんなところにも嫌なシミを落としています。

2年間道教組の女性部長を引き受ける中で、全国の仲間と交流する機会を頂きました。

「集まれば元気、語り合えば勇気、仲間が増えれば力…」長い間、全教女性部が取り組んできた合言葉の意味が心に響きます。「安心して愚痴が言えて、弱音をはける仲間がいる場」を女性部の目線で提供することができたらと思います。

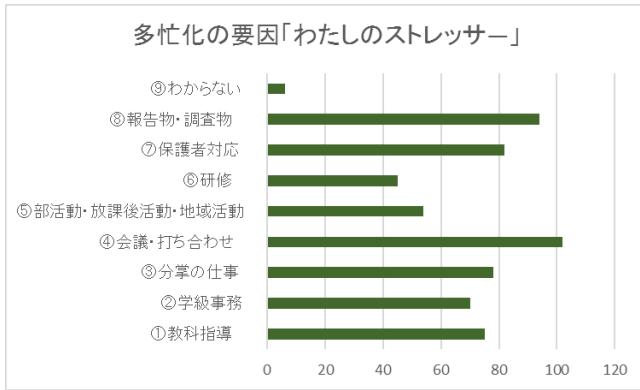
私たちの仲間には、経験という武器をもつ先輩、何度でも立ちあがる若さという万能薬をもつ若者がいます。導いてくれる賢者はいないけれど、切り抜ける知恵を出し合つて、あがくこともできます。今ある環境の中で、一人ひとりの心地よい居場所を営むために、誰かのために、未来の何かのためにあゆみを進めましょう。(道教組女性部長 山本佳奈子@宗谷教組)



宗谷教組：稚内支部



先生方が感じる多忙化「そう思う」を数値化(複数回答有)



この項目は、教育界の「今年」がよく表れた結果とよむことができそうです。新学習指導要領の本格実施に向けて、会議や研修、分掌の仕事増はありませんか？それに加えて、震災やブラックアウトの対応によるイレギュラーな業務もあったのではないのでしょうか。これらの業務は、すべて私たちの日常です。効率化は可能でしょうか。考えるための会議が増えたり、新しいシステムを覚える時間が追加されたりするのは実に本末転倒です。

権利行使状況「自分は後回し」「家族優先？」

単組ごとに、学習や啓もうが進み、権利を「知らない」という状況は少なくなっています。しかし、「生休をとりにくい」「伝えにくい」などの状況は、無くなりません。引き続き、声をかけ合うことが必要です。妊娠・出産・子育てにかかわる権利は、必要な時に行使されている様子があります。ただ、子どものことで休むことが多いので自分の体調が悪くても、無理をしているお母さん先生がいるようです。

定数の教員配置ですらままならない今年度でした。「産休・育休の代替を引き受けてくれる、期限付き採用の先生の確保」「更年期の体調不良に対応する休暇の位置づけ」「両親だけではなく、兄弟や叔父・叔母の介護」など、様々な世代が働き続けるために必要な権利を獲得できるよう運動を進める必要があります。

職場づくり

- ・忙しくなると、イライラしたり、不満がわいてきたり「なんで自分ばかり…」と嫌な考えばかりがうかぶ自分になります。
- ・「定時退勤」「働き方改革」といっても、ぜんぜん仕事は減らない。人を増やしてほしいし、 unnecessaryな仕事や研修はもっとあるはず。一方、「働き方改革」といって一番大切な教材研究までおろそかにしている先生がいることも気になっている。授業は教師の命！ここには時間と熱意をさくべきなのではないかと日々感じる。
- ・昨年婦人科の病院で入院、治療が続いたが、管理職が優しく対応してくださったので、安心して休暇を取れた（留守中の業務も分担してやってくださった）。

自分のこと

- ・病気をした人への配慮は、管理職から関係者に伝えてもらいたい。なかなか本人から「〇〇はできません」とは言いにくい。
- ・週末、しっかり休まないで体が回復しません。平日の勤務が長くなる変形労働制は絶対に反対です。4時半まで会議や研修が入ったら、自分の仕事をする時間が無くなります。

子育て・家族のこと

- ・小さい子を育てながら仕事をしていますが、郡部への異動を強いられています。子が大きくなったらいくらかでも異動できます。その融通がきかなく不満に思っています。
- ・職場での理解がとても重要と考えます。過去に主人が出張（6ヶ月以上）でいない状況の中、3人の子ども（当時は保育園・小学生・中学生）を育てたのですが、仕事が忙しく毎日夜の8時～9時までという状況が1ヶ月ほど続き大変でした。←開校した学校だったので、仕事が忙しかった…道立学校での出来事でした。